



二松學舎大学

東アジア学術総合研究所・国際政治経済学部共催 公開シンポジウム

『現代の政策を科学するⅢ』

“Today's Social Sciences in Practice Ⅲ”

＜シンポジウムの概要＞

日本のみならず、今日ほど科学・技術と政策のありかたを追求すべき時代はない。然るに、社会問題の真因を特定しないままの、歴史の評価には堪え得ないのである。政策が横行する昨今、経済学、政治学・行政学といった社会科学の知見が充分には活用されていないことを危惧する。

このような危機感のもと、シリーズ3回目は長期とグローバル化の視座から政策の政治／市場評価に焦点を当てる。

併存する多様な利害（例えば、市場経済での「消費者（労働者）」対「企業」の2極構図はその典型）から「民意」が正当に合意形成され、適切な政策に具現化されているかに関して、「国民の為の」政策かが問われる（「政治評価」）。他方、政策の作用・副作用に晒される国内外の株式、外国為替、国債といった市場は、理論的に予見される価格変化を顕示するか否かにより、政策に対して追認／警鐘のシグナルを発信していると判断される（「市場評価」）。

上述の双方向の評価に際して、飽和状態の消費欲求と将来の不確実性が色濃く影を落とす成熟社会では、金融緩和／財政再建の選択、イノベーションの促進・活用策、あるいは資源・エネルギー政策等において、「短期」対「中・長期」という異時点の視座、及び「保護主義」対「グローバル化」という異地点を視座に据えて、政策の視野範囲の選択も含めた考察が不可欠となっている。

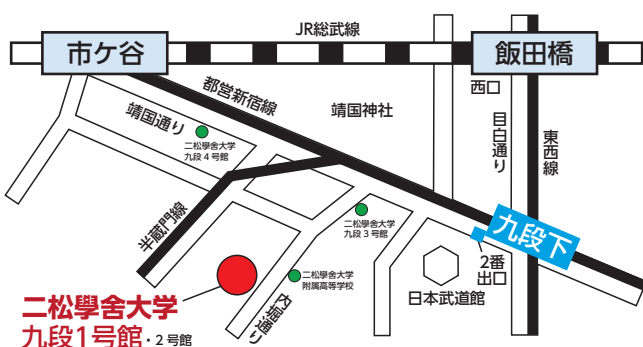
平成30年10月27日(土) 13:30~17:30 (開場13:00)

二松學舎大学九段キャンパス1号館 202教室

※参加無料、事前申込不要、一般来場歓迎

（タイムテーブル）

- 13:30 開会挨拶：**牧角 悦子（東アジア学術総合研究所長・文学部教授）
- 13:40 学長挨拶：**菅原 淳子（二松學舎大学学長・国際政治経済学部教授）
- 総司会・進行：**渡辺 和則（国際政治経済学部教授）
- 13:50 基調講演：**『市場と政策の双方向作用 — 長期とグローバル化の視座 —』
野村 芳正（東アジア学術総合研究所特命教授・千葉大学名誉教授）
- 14:10 講演1：**『グローバル企業による市場創造 — オープン&クローズ戦略の脅威 —』
小具 龍史（国際政治経済学部准教授）
- 14:40 講演2：**『社会の分断に関する経済シミュレーション — アメリカを想定して —』
田端 克至（愛知大学経済学部教授）
- （休憩）
- 15:30 講演3：**『歴史と理論から見るトランプ外交』
手賀 裕輔（国際政治経済学部准教授）
- 16:00 招待講演：**『政権主導のエネルギー政策と原子力行政』
新藤 宗幸（千葉大学名誉教授）
- 17:10 質疑応答**
- 17:20 閉会挨拶：**中山 政義（国際政治経済学部長）



＜お問い合わせ＞

二松學舎大学
東アジア学術総合研究所
TEL 03-3261-3535

◎東京メトロ 東西線・半蔵門線、都営新宿線「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分

◎JR「市ヶ谷」「飯田橋」駅下車、徒歩15分

※会場には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮ください。